

令和6年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(内閣府6-31)

政策名及び施策名	政策名「日本学術会議」 施策名「日本学術会議に関する施策の推進」	担当部局・作成責任者名	日本学術会議事務局 企画課長 水本 圭祐
施策の概要	各学術分野における様々な課題や社会が抱える特に重要な課題について、日本学術会議会員及び連携会員で構成する委員会等を設置、開催して、科学に関する重要事項の審議を行うことにより、政府からの諮問に対する答申、政府に対する勧告、その他政府、社会に対する提言等を行う。	事後評価実施予定時期	令和7年度(1年目評価) 令和9年度(最終年度評価)

施策目標	わが国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させること。					
施策目標の設定の考え方・根拠	日本学術会議法第2条において、日本学術会議の目的として規定されているため。					
中目標1	地球規模課題への対応のため、各国アカデミーとの連携を強化する。					
測定指標1 【主要な測定指標】	・開催した国際シンポジウムの事後アンケートでシンポジウムを肯定的に評価した者の割合			測定指標の選定理由		
				R6年度	R7年度	R8年度
	目標値 (目標年度)	80%以上 (令和8年度)	年度ごとの 目標値	80%以上	80%以上	80%以上
	基準値 (基準年度)	55% (半数以上が肯定的に評価していること)	年度ごとの 実績値			
				目標(値・年度)の設定の根拠		
				測定指標の実績値の把握方法		
				国際シンポジウムの開催は、日本学術会議の国際活動のうち、科学者の意見を政策決定過程に効果的に反映するために活動する事業である。アンケート結果を測定指標に掲げ、その実績値を分析することが事業の内容改善の一助となると考えられるため、アンケート結果を測定指標に掲げた。		
				基準値は本指標を用い始めた令和4年度の値(半数以上が肯定的に評価となる55%)を継続しつつ、目標値は令和4(86%)・5年度(98%)(2か年)の成果実績を踏まえ設定した。 (開催年により会議のテーマも対象者も異なることから前年度の値は目標値とはせず)		
				シンポジウム参加者へのアンケート結果による		

参考指標1	共同主催国際会議の開催件数						参考指標の選定理由	共同主催国際会議の開催は、日本学術会議の国際活動の柱の一つであり、その活動状況を測る一つの参考指標として、会議の開催件数を掲げた。
	参考値 (参考年度)	6件 (R6年度)		R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	共同主催国際会議の開催件数
			年度ごとの実績値					
参考指標2	国際シンポジウムの開催回数						参考指標の選定理由	国際シンポジウムの開催は、日本学術会議の国際活動の柱の一つであり、その活動状況を測る一つの参考指標として、会議の開催回数を掲げた。
	参考値 (参考年度)	1回 (R6年度)		R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	国際シンポジウムの開催回数
			年度ごとの実績値					
参考指標3	アジア学術会議の開催回数						参考指標の選定理由	アジアにおける科学に関する意見交換プラットフォームとしてアジア学術会議を年1回開催することが、アジア地域における学術的な協力の促進につながるため。
	参考値 (参考年度)	1回 (R6年度)		R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	アジア学術会議の開催回数
			年度ごとの実績値					

参考指標4	G7サミット等に対する提言として発出した共同声明の数						参考指標の選定理由	科学的見地からの提言がG7サミット等でもテーマとして扱われることが、G7サミット等の議論に貢献することにつながるため。
	参考値 (参考年度)	4 (R6年度)	年度ごとの 実績値	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	G7アカデミー間での検討も踏まえ主催国が選定した共同声明のテーマ数。
参考指標5	国際学術団体の総会等への派遣回数						参考指標の選定理由	より多くの国際学術団体の総会等へ派遣することが、世界の学界との連携、国際学術団体の運営への参画等や日本の学術の動向の発信につながるため、その活動状況を測る一つの参考指標として、派遣回数を掲げた。
	参考値 (参考年度)	25回 (R6年度)	年度ごとの 実績値	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	国際学術団体の総会等への派遣回数
参考指標6	・開催した国際会議への参加人数 (上段: 共同主催国際会議、下段: アジア学術会議)						参考指標の選定理由	共同主催国際会議: 日本学術会議が行う共同主催国際会議は、規模、内容が様々であり、定量的に比較できる数値は参加人数となるため。 アジア学術会議: 主催機関は毎年変わるため、定量的に比較できる数値は参加人数となるため。
	参考値 (参考年度)	11,900人 (R6年度) 200人	年度ごとの 実績値	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	共同主催国際会議: 各共同主催機関がカウントした参加人数を足し合わせた人数。 アジア学術会議: 主催機関がカウントした参加人数。

参考指標7	・共同声明にて提言したもののうち、G7サミット等で扱われたテーマの数						参考指標の選定理由	定量的な数値は、G7サミット等で扱われたテーマの数のみとなるため。
	参考値 (参考年度)	4 (R6年度)		R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	G7サミット等で扱われたテーマの数
参考指標8	・派遣した国際会議の平均参加者数						参考指標の選定理由	国際学術団体の総会等は規模、内容が様々であり、定量的に比較できる数値は参加者数となるため。
	参考値 (参考年度)	645人 (R6年度)		R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	派遣した国際会議の平均参加者数

中目標2	科学者間交流を推進し、科学者内の連携・協力体制を強化する。							
参考指標1	地区会議公開学術講演会の開催回数						参考指標の選定理由	地区会議公開講演会は、科学的・学術的な研究成果を国民に還元するための活動として開催している事業であり、その活動状況を測る一つの参考指標として、開催回数を掲げた。
	参考値 (参考年度)	7回 (R5年度)	年度ごとの 実績値	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	地区会議公開学術講演会の開催回数
参考指標2	地区会議公開学術講演会の参加者数(1回当たり平均値)						参考指標の選定理由	地区会議公開学術講演会は、科学的・学術的な研究成果を国民に還元するための活動として開催している事業であり、その活動状況を測る一つの参考指標として、参加者数(1回当たり平均値)を掲げた。
	参考値 (参考年度)	200人 (R5年度)	年度ごとの 実績値	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	地区会議公開学術講演会の開催に際し、参加者は事前申込制となっており、その申込数と当日の受付記録で確認している。

中目標3	科学の役割についての国民の認識の向上。							
参考指標1	日本学術会議主催学術フォーラム等の開催回数						参考指標の選定理由	学術フォーラムは、科学的・学術的な研究成果を国民に還元するための活動として開催している事業であり、その活動状況を測る一つの参考指標として、開催回数を掲げた。
	参考値 (参考年度)	8回 (R5年度)	年度ごとの 実績値	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	年度内に開催された、日本学術会議主催学術フォーラムの開催回数を実績値とする。
参考指標2	学術フォーラムの参加者数(1回当たり平均値)						参考指標の選定理由	学術フォーラムは国民の関心の高いテーマを選定し、国民との双方向のコミュニケーションの充実を図る事業であることから、参加者数の平均値を分析することで、内容改善の一助とするため。
	参考値 (参考年度)	173.5人 (R5年度)	年度ごとの 実績値	R6年度	R7年度	R8年度	参考指標の実績値の把握方法	年度内に開催された、各学術フォーラム参加者数の合計を開催回数で割ることにより平均値を算出し、当該年度の実測値とする。

	施策に関連する主な内閣府事業 (開始年度)	関連する中目標・ 行政事業レビュー 事業番号	予算額 (執行額) ※単位:百万円			事業概要
			R6年度	R7年度	R8年度	
1	各国アカデミーとの交流等の国際的な活動(昭和23年度)	中目標1	217			各国アカデミーとの交流や国際学術機関への対応を行い、国際的な場面での我が国の科学者の立場の表明や、世界の科学・技術の潮流に接する機会を持つことによって、我が国の科学者の地位向上や、学術分野における国際社会で我が国が名誉ある地位を占め、世界をリードする立場になるよう、寄与している。
2	科学の役割についての普及・啓発(昭和61年度)	中目標2 00242	6			日本学術会議会員等による講演・パネルディスカッションを内容とする学術フォーラムを開催することにより、学術成果の国民への還元を図っている。
3	科学者間ネットワークの構築(昭和24年度)	中目標3 00243	7			全国7ブロックで地区会議を開催し、その中で行われる地区会議公開講演会を通じて日本学術会議が集積した研究成果や学術情報の提供を行うとともに、地域の科学者との意見交換の場を設けることで、科学者間ネットワークの構築に寄与している。
		施策の予算額 (執行額)	230			

	施策に関連する内閣の重要施策 (施政方針演説等のうち主なもの)	年月日	関係部分抜粋
1	-	-	-